

「基本目標 4 文化活動の充実」に関する事業

(1-1) 点検・評価表

4-1 市民文化・市民芸術の活性化

4-1-1 文化・芸術に親しむ機会を充実します・・・・・・・・・・67

4-2 文化財と文化資産の保全・再整備と活用

4-2-1 郷土芸能伝承行事の団体活動や後継者の育成を支援します・・・・・・・・68

4-2-2 市内の文化遺産を活用した企画展やイベントなどを充実します・・・・69

4-2-3 埋蔵文化財発掘調査の最新情報の発信を充実します・・・・・・・・・・70

4-2-4 市内の文化遺産の情報を発信するデジタル資料館を充実します・・・・71

4-2-5 市内の文化遺産のガイダンス設備を充実します・・・・・・・・・・72

4-2-6 史跡末松廃寺跡の解明を進め魅力ある再整備を実施します・・・・・・・・73

4-2-7 貴重な歴史遺産である史跡御経塚遺跡の再整備を実施します・・・・74

4-2-8 文化財施設の計画的整備と活用を図ります・・・・・・・・・・75

令和7年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和6年度実施事業分）

（担当課）生涯学習課・教育総務課・地域振興課

基本目標 4 文化活動の充実
 基本的施策 1 市民文化・市民芸術の活用性
 具体的施策 4-1-1 文化・芸術に親しむ機会を充実します

■当該施策に基づいて実施した主な事業

・市立中学校での古典芸能を鑑賞する機会の提供
 ・「ののいちマナビィフェスタ」や、市観光物産協会等と連携したイベントなどを通じた文化・芸術鑑賞する機会の提供

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
・古典芸能などの鑑賞や「ののいちマナビィフェスタ」やなど、子どもから大人まで幅広い世代を対象に文化・芸術を身近に感じることができる機会を提供できた。	・文化・芸術は、想像力豊かなひとづくりと活気あるまちづくりには欠かせないものであり、市民が普段から身近に感じることができる環境をつくることが重要である。 ・市民参加型のイベントなどを通じて文化芸術活動の充実を図るなど、文化・芸術を身近に感じることができる機会を継続して提供することが必要である。

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値（R2）	R4実績値	R5実績値	R6実績値	目標値（R13）

（3）今後の展望

・古典芸能などの鑑賞や「ののいちマナビィフェスタ」など子どもから大人まで幅広い世代を対象に文化・芸術を身近に感じることができる機会を継続して提供する。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
C	C		引き続き、市立小中学校で実施されるイベントなどを通じて文化・芸術を身近に感じることができる機会を幅広い世代に提供するため。

令和7年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和6年度実施事業分）

（担当課）生涯学習課

基本目標 4 文化活動の充実
 基本的施策 2 文化財と文化資産の保全・再整備と活用
 具体的施策 4-2-1 郷土芸能伝承行事の団体活動や後継者の育成を支援します

■当該施策に基づいて実施した主な事業

- ・郷土芸能伝承行事の市文化財指定（虫送り）
- ・郷土芸能伝承団体への助成・活動の援助（獅子舞・野菜神輿・虫送り・地域じょんから）
- ・文化財保護審議会の開催（年1回）

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
・文化財保護審議会の開催や伝承団体への活動助成・支援を実施したことで、文化財の保存及び活用を図った。 ・地域での保存意識を高めるため、特に重要な伝統芸能、伝承行事を市文化財に指定した。	・市内に残る文化財の保存及び活用を図るため、文化財の調査・指定、文化財保護審議会の開催を行っていくことが必要。

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値（R2）	R4実績値	R5実績値	R6実績値	目標値（R13）
4-2-1	郷土芸能伝承行事普及啓発活動件数（累計）	回	1	4	9	15	15
4-2-1	市指定無形民俗文化財の件数	件	1	1	3	6	4

（3）今後の展望

- ・保存すべき郷土芸能伝承行事について文化財指定を目指し、未指定の郷土芸能伝承行事については調査研究を図る。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
A	C		郷土芸能伝承団体へは引き続き支援を行い、未指定の郷土芸能伝承行事については、調査・研究を行い歴史や実態の把握を継続して実施する必要があるため。

令和7年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和6年度実施事業分）

（担当課）生涯学習課

基本目標 4 文化活動の充実
 基本的施策 2 文化財と文化資産の保全・再整備と活用
 具体的施策 4-2-2 市内の文化遺産を活用した企画展やイベントなどを充実します

■当該施策に基づいて実施した主な事業

- ・歴史資料を紹介する企画展の開催
 （文化財企画展「野々市の虫送り 会場：郷土資料館N o N o・富奥防災コミュニティセンター 来場者数：延べ3,112人）
- ・縄文土器づくり、勾玉づくりをはじめとした歴史体験イベントの実施
 （夏休み古代体験2024 会場：ふるさと歴史館 参加者数：延べ177人）
- ・北国街道をテーマにした歴史まち歩き講座の実施
 （「北国街道の石造物をめぐる一石が伝えるまちの歴史」 会場：旧北国街道周辺 参加者数：14人）
- ・市ホームページ等を活用した歴史や文化財の情報発信 ・市内小学校などに出向いての授業や講座の実施
- ・他自治体や関係団体との連携事業、共催事業の開催

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
・古代体験、企画展示、講座などの実施により市民に市内の文化財を普及する機会を創出した。 ・他自治体や関係団体との連携事業、共催事業を開催し、文化財を活用したことで文化財への理解を深めることができた。	・企画展やイベントについては、公共の財産である文化財の魅力をわかりやすく発信する効果的な方法を検討し、継続して市の歴史や文化財を幅広い世代に伝える事業を展開していくことが必要。

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値（R2）	R4実績値	R5実績値	R6実績値	目標値（R13）
4-2-2	イベントなどへの参加者	人/年	1,694	1,078	3,992	3,932	5,000
4-2-2	文化財施設の利用者数	人/年	4,309	10,893	10,137	12,684	10,000

（3）今後の展望

- ・文化財の魅力を広く周知するための普及啓発事業の内容や、事業の実施に際して効果的な周知方法なども検討し、実施する。
- ・文化財をより身近に感じることができるよう、文化財施設の活用を推進する。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
C	C		市内の文化遺産を幅広い世代に普及・啓発するため、引き続き事業を継続する。

令和7年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和6年度実施事業分）

（担当課）生涯学習課

基本目標 4 文化活動の充実
 基本的施策 2 文化財と文化資産の保全・再整備と活用
 具体的施策 4-2-3 埋蔵文化財発掘調査の最新情報の発信を充実します

■当該施策に基づいて実施した主な事業

- ・埋蔵文化財発掘調査の現地説明会の開催（横江ゴクラク寺遺跡 参加者数：80人）
- ・埋蔵文化財企画展の開催（石川中央都市圏歴史資料展「江戸時代編」 会場：ふるさと歴史館 来場者数：59人）
- ・市ホームページを活用した発掘調査成果の情報発信
- ・他自治体や関係団体主催の事業において、職員による埋蔵文化財発掘調査成果等の講義・報告の実施（寿大学院歴史・文学コースでの講義 主催：中央公民館 受講回数：3回 コース専攻者数：29人）

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
・埋蔵文化財発掘調査の現地説明会及び企画展等の開催により、市内文化財の最新情報や調査成果などが発信できた。	・現地説明会について、発掘調査の条件によって実施できない場合があるため、ホームページ等を活用し効果的な情報発信が必要。

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値（R2）	R4実績値	R5実績値	R6実績値	目標値（R13）

（3）今後の展望

- ・市民に文化財を広く啓発するため、埋蔵文化財発掘調査現地説明会及び企画展などを継続して行うとともに、市広報や市ホームページを活用し、開催の周知や発掘調査成果の発信を行う。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
A	C		市民に文化財を広く啓発するため、埋蔵文化財発掘調査現地説明会及び企画展などの実施と情報発信を継続する。

令和7年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和6年度実施事業分）

（担当課）生涯学習課

基本目標 4 文化活動の充実
 基本的施策 2 文化財と文化資産の保全・再整備と活用
 具体的施策 4-2-4 市内の文化遺産の情報を発信するデジタル資料館を充実します

■当該施策に基づいて実施した主な事業

・デジタル資料館のコンテンツの更新
 ・市ホームページへの掲載によるデジタル資料館の情報発信
 ・金沢大学資料館と石川県内の博物館等が連携したデジタル・アーカイブ形成事業にデジタル資料館掲載の資料を本市所蔵資料として公開

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
・保存修理終了後の国重要文化財「御経塚遺跡出土品」写真をデジタル資料館に追加するなどコンテンツ内を更新することで内容の充実を図った。	・埋蔵文化財の調査成果や民具などの未掲載のコンテンツの補完や、アクセス数向上のための魅力的なコンテンツの考案・周知方法の改善を検証することにより内容の充実を図ることが必要。

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値（R2）	R4実績値	R5実績値	R6実績値	目標値（R13）
4-2-4	デジタル資料館へのアクセス数	人/年	4,417	3,936	8,584	13,115	7,000

（3）今後の展望

デジタル資料館のコンテンツを拡充していくとともに、デジタル資料館のさらなる周知を目指す。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
A	A		コンテンツ拡充及びアクセス数の向上を目指すため、内容の充実及び情報発信を図る。

令和7年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和6年度実施事業分）

（担当課）生涯学習課

基本目標 4 文化活動の充実
 基本的施策 2 文化財と文化資産の保全・再整備と活用
 具体的施策 4-2-5 市内の文化遺産のガイダンス設備を充実します

■当該施策に基づいて実施した主な事業

・市ホームページへの掲載及び市内文化財説明看板の位置を記載している文化財マップの配布による、説明看板の周知活動

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
・市内文化財説明看板設置について、市ホームページへの掲載及び文化財マップを配布することで市民に広く存在を周知できた。	・新たに判明した遺跡等に対応した設置計画の作成や、既設看板についても板面へのQRコードの取り付けやホームページのリンク等、市民に広く文化遺産の周知ができるような工夫が必要。

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値（R2）	R4実績値	R5実績値	R6実績値	目標値（R13）
4-2-5	文化財説明看板の整備数	基	58	59	59	60	70

（3）今後の展望

・発掘調査によって新たに判明した遺跡や、新たに指定となった文化財について説明看板を計画的に設置し、既設の看板についても状況に応じて適切に板面を刷新していく。また、周知活動を継続して行う。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
A	A		看板の新設や既設の看板の更新を行い、より市民に周知を図るため、事業を拡大・重点化する。

令和7年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和6年度実施事業分）

（担当課）生涯学習課

基本目標 4 文化活動の充実
 基本的施策 2 文化財と文化資産の保全・再整備と活用
 具体的施策 4-2-6 史跡末松廃寺跡の解明を進め魅力ある再設備を実施します

■当該施策に基づいて実施した主な事業

・野々市市遺跡調査指導委員会の開催（1回）

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
・野々市市遺跡調査指導委員会及び県内外有識者の指導のもと、現地調査出土品等の整理作業を実施した。	・事業の進捗に合わせて事業計画の見直しが必要。

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値（R2）	R4実績値	R5実績値	R6実績値	目標値（R13）
4-2-6	発掘調査の進捗率	%	80	88	95	97	100
4-2-6	末松廃寺跡の再整備進捗率	%	45	56	61	65	100

（3）今後の展望

・令和元年度から実施してきた現地発掘調査について令和5年度をもって一区切りし、令和6年度からは出土品及び記録類の整理作業を行い、調査成果をまとめた発掘調査報告書を刊行していく。今後については、寺院の詳細についての不明点が依然としてあるため、再整備に向けた調査を検討していく。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
C	C		遺跡調査指導委員会及び文化庁・県からの指導を受けながら事業を継続する。

令和7年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和6年度実施事業分）

（担当課）生涯学習課

基本目標 4 文化活動の充実
 基本的施策 2 文化財と文化資産の保全・再整備と活用
 具体的施策 4-2-7 貴重な歴史遺産である史跡御経塚遺跡の再整備を実施します

■当該施策に基づいて実施した主な事業

・国重要文化財に指定されている御経塚遺跡出土品の土器8点及び土製品1点を文化庁の指導に基づき保存修理を行った。
 ・保存終了後の出土品については御経塚史跡公園に隣接するふるさと歴史館での展示や、市内の文化財などを画像や映像で閲覧できる「野々市デジタル資料館」による公開を行った。

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
・保存修理の完了した出土品をふるさと歴史館での展示や、デジタル資料館による公開を行ったことで、文化財の魅力を広く市民に周知できた。	・国重要文化財石川県御経塚遺跡出土品の保存管理について万全を期し、デジタル資料館を活用するなどの展示公開の方法について、より魅力的な方法を考案する。 ・現在の史跡整備は、周辺の調査で得た成果から復元されており、本来の姿を示していないことから再整備のための発掘調査が必要である。 ・事業の進捗に合わせて事業計画の見直しが必要である。

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値（R2）	R4実績値	R5実績値	R6実績値	目標値（R13）
4-2-7	重文御経塚遺跡出土品修理の進捗	%	65	75	79	81	100

（3）今後の展望

・保存修理について、文化庁の指導を受けながら実施し、事業の進捗に合わせた計画の見直しも適宜行う。
 ・保存修理の完了した土器・土製品については、ふるさと歴史館において展示公開を行っていく。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
A	C		修理計画及び文化庁の指導に基づき、保存修理を実施し、修理終了後の出土品は継続して展示公開を実施する。

令和7年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和6年度実施事業分）

（担当課）生涯学習課

基本目標 4 文化活動の充実
 基本的施策 2 文化財と文化資産の保全・再整備と活用
 具体的施策 4-2-8 文化財施設の計画的整備と活用を図ります

■当該施策に基づいて実施した主な事業

・ふるさと歴史館・郷土資料館・喜多家住宅の管理・運営・活用

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
・企画展やイベントの実施により文化財施設の活用促進を行った。 ・郷土資料館の一部を民間事業者の管理・運営に切り替え、民間事業者及び関係課と連携したことで郷土資料館周辺のにぎわい創出を推進できた。	・「公共施設個別施設計画」に基づいた計画的な施設改修が必要。 ・文化財施設の活用促進に向け、展示設備の整備やイベントの企画などの検討が必要。 ・カミーノ、カレードなどの他公共施設や関係団体、地元の大学などとの連携が必要。

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値（R2）	R4実績値	R5実績値	R6実績値	目標値（R13）

（3）今後の展望

・ふるさと歴史館については、「公共施設個別施設計画」や各種点検結果等に基づき、計画的な修理・管理を行っていく。
 ・郷土資料館については、「公共施設個別施設計画」等に基づき、修理等を計画的に実施し、民間事業者及び関係課と共に引き続きにぎわい創出に努める。
 ・国重要文化財喜多家住宅については、必要に応じ修繕工事を実施予定。その後は「重要文化財喜多家住宅保存活用計画」に即した保存・活用を文化庁や県等の指導を仰ぎながら適切に行っていく。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
C	C		施設の更なる利活用の促進を図る。

(4-2) 学識経験者からの意見

・市民が普段から文化・芸術を身近に感じることが出来る環境づくりは大事なことであります。そうした意味でも中学生に古典芸能などを鑑賞する機会を提供すること、市民参加型のマナビィフェスタ等の開催により、幅広い世代の市民の方々に文化や芸術を身近に感じてもらう機会を提供できたことは大いに評価できます。今後もこうした機会の充実を期待します。

・虫送りの市文化財指定や獅子舞などの郷土芸能伝承団体への活動助成・支援の実施などにより適切に文化財の保存及び活用がなされていることは望ましいことでもあります。今後はこうした伝統芸能伝承行事についての市民の理解が深まるように市民への啓発を充実させていただきたい。

・古代体験、企画展示、歴史まち歩き講座、埋蔵文化財の現地説明会等の実施により、市内の文化財を市民に伝える機会の充実が図られるとともに、こうしたイベントへの参加者数や文化財施設の利用者数が増加傾向にあることは望ましいことでもあります。また、他の自治体や関係団体などと連携事業や共催事業として企画展示等を開催できたことも大きな成果であります。今後も市の歴史や文化財が身近なものとして市民に伝わるような事業の開催を期待します。

・デジタル資料館のコンテンツ内容の充実が図られ、デジタル資料館へのアクセス数も大幅に増加しています。また、市内の文化財説明看板の設置・改良も進められています。これらのことは、市民の郷土の歴史や郷土への関心を高める上で大事なことです。また、企画展や各種イベントの実施により、文化財施設の活用が促進されていることも市民にとって文化財が身近なものとなり、望ましいことです。また、こうした取組みにより、ガイダンス機能が着実に充実し、市民や来訪者が文化財への理解を深めやすくなっており、観光・教育・地域振興への波及効果も期待されます。今後も他の公共施設や関係団体、地元の大学などとの連携を図り、文化財施設の活用のより一層の促進を図っていただくとともに、計画的な整備と多様な情報手段の活用による周知活動の推進を期待します。

・文化財施設は施設環境の改善や利活用の向上に努めている一方、老朽化が進んでいる箇所もあり、公共施設個別施設計画に基づいた改修を推進していくことが課題です。

・民間事業者が運営する郷土資料館で利用者数が増加している事例は、地域のにぎわ

い創出や文化財の活用促進における模範的な取組であり、今後の展開にも期待します。

・市民が文化に親しむ環境づくりや、地域資源としての文化財の魅力を再発見していくための取組が着実に進められてきました。今後も、これまでの取組を大切にしながら、重点的な施策の推進や情報発信の工夫を通じて、文化活動がより豊かに広がっていくことを期待します。

（４－３）今後の方針

・市民参加型のイベントや学校での古典芸能などの鑑賞を通じて、多くの市民が優れた文化や芸術を身近に感じることができる機会を引き続き提供していきます。

・郷土芸能伝承団体への保存継承に向けた取組に対し、さまざまなかたちで引き続き活動支援を行い、未指定の無形民俗文化財（郷土芸能・伝統行事）の調査研究も実施していきます。

・市ホームページで文化財資料の公開・活用を行うデジタル資料館の新たなコンテンツ作成や新しい出土品の掲載等の充実に努め、市民に文化財に関する情報をわかりやすく、広く周知します。

・ふるさと歴史館、郷土資料館、喜多家住宅の活用の推進を図ります。また、多くの来館者にきていただけるよう、幅広い層の方々がさまざまなかたちで楽しめるよう取り組みます。

・文化財企画展や古代体験学習、歴史講演会、学校での出前講座など、郷土の歴史や伝統行事の知識を深める普及啓発事業の更なる充実に努め、大学や各関係団体等と連携しながら、市民が利用しやすい情報の発信に努めます。

・各施設の適切な管理運営に努めるとともに、必要な修繕及び改修に取り組みます。